

JICA 中国事務所ニュース

(2006 年9月号)

1. JICA 及び JICA 事業に関する最近のトピック

(1) 青海省でのドナーミーティング出席報告

8月15日と16日の2日間、真夏の青空が広がる青海省の西寧市で、商務部主催によるドナーミーティングが開催され、事務所からは大久保、魏然(ウエイラン)の両所員が出席しました。

ドナーミーティングとは、中国に対し援助を行っている各国の大使館や JICA のような政府系援助実施機関、また国連機関のような国際機関が集まる会議のことです。商務部は一年おきにこのようなドナー一会合を開催しています。今回の会議にはドナー12機関に加えて、商務部を含む 22 の中央部署、そして青海省を含む 30 省からの代表者も出席する大規模な集まりでした。

青海省は中国西部の中でも特に経済発展が遅れた地域で、一人当たりの GDP は 250 ドルのところもあります。今まで JICA による環西寧圏総合観光開発計画調査等の協力、EU による牧畜業支援のプロジェクト、そして UNFPA(国連人口基金)による女性保健能力の向上のプロジェクト等、各ドナーが青海省で援助を実施してきました。

この会合は、まず青海省の環境保護庁や農業庁等の各部から、ドナーに対する協力ニーズについての報告を行い、続いて各ドナーが今後どのように援助を展開するかについて報告するという二つのセッションで構成されました。

最初のセッションでは、青海省の各担当部署による今までの協力案件の内容、成果の発表を踏まえて、今後の協力ニーズに対してドナー間と意見交換が行われました。日本大使館と JICA は日本の援助重点分野を紹介すると共に、「日本国内では中国の一人当たり GDP は 1700 ドルを超え、貧困地域の発展は中国国内の分配の問題である、という声も大き

い」という本音ベースの議論も提供し、これをきっかけにドイツ等の他のドナーも同じような議論が各国内にあることが紹介されました。青海省の担当者らは、「北京や上海等の沿海部の都市と青海とは状況が全く異なる」といった反応が出されましたが、ドナー国内の議論を率直に示したことは、中国側にとっても一定の意味があったものと思います。

次のセッションでは、易小准商務部副部長による挨拶の後、各ドナーより青海省だけではなく、対中援助全般の援助実績や、今後の援助動向についてそれぞれプレゼンを行いました。ドナー間に共通の論点として、これからの予算規模の縮小、地方の貧困削減に対する援助から中央レベルの政策支援へのシフト、NGO 等民間団体との協力、及び中国政府の対アフリカ援助における協力の展開等が示され、JICA と同様の議論を行っていることがわかりました。また、国際援助におけるドナー間のパートナーシップを構築していくことでも認識が一致しています。



このように充実した議論や、他ドナーとの共通項の確認を行えたとともに、JICA に対しては「別の機会にお互いの事業紹介の機会を持ちたい」(ドイツ)「相互理解に興味がある」(UNFPA)「一緒に協力を進めたい」(KOICA)といった声が寄せられました。このようにフェーストゥフェースで得た関係をもとに、事務所として他ドナーとの協力を模索したいと考えています。(魏然)

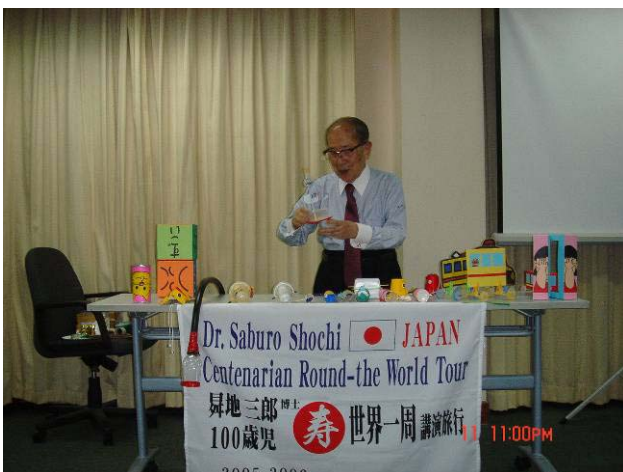
(2) 100歳の草の根専門家、教育を語る

～昇地三郎博士の講演会報告～



8月12日(土)、国際交流基金において、JICA 草の根技術協力「知的障害児教育施設(特殊学級)の設立支援」の専門家である昇地三郎博士の講演会が行われました。昇地先生は今年でちょうど100歳。しかし現在も国際協力のために大活躍されています。

「特殊学級」プロジェクトは、2年前に草の根(支援型)として始まった事業です。中国では知的障害児のための教育制度はまだ整っていません。多くの知的障害児は、普通の学校に入学することもできず、家庭に閉じこもったままや、精神病院に入院させられているのが現状です。中国のこの状況を少しでも改善しようと、このプロジェクトはNPOである「九州アジア記者クラブ」の提案で始められました。昇地先生は、日本では有名な養護学校である「しいのみ学園」の園長をされており、障害児教育のパイオニア



とも言えます。

プロジェクト自体は既に終了しましたが、昇地先生はその後も中国の知的障害児や幼児教育の発展のために中国をはじめとする多くの国を訪れています。今回の講演も世界一周講演会の一環として行われたもので、JICAも協力して開催されました。中国でも「しいのみ学園」を開校されるなど、その活動は日本にとどまりません。その経験を買われ、プロジェクトの中核として、技術指導やセミナーの講師を務めました。

講演では、昇地先生はプロジェクトでの経験をはじめ、これまで80年に渡る障害児教育の実践と理念について熱心に語られました。講演会の案内期間が短く、また当日の天候は悪かったのですが、それでも80名の日本人と中国人のお客さんが集まりました。中には浙江省や山東省から夜行列車で駆けつけた方もおり、関心の高さがわかりました。2時間に渡る講演の中で、先生は幼児向けのおもちゃを聴衆と一緒に作りながら説明するなど、参加形式でなごやかに進められました。また最後には日本の民族舞踊の「黒田節」を張りのある声で披露し、会場を盛り上げました。



100歳になっても元気な昇地先生は、会場の参加者に大きなエネルギーと励ましを与えました。講演会の翌日には、長春での講演会に旅立たれ、元気をアピールしました。ODA 広報としてユニークですが非常に有益な行事となりました。

※昇地先生の講演については、九州アジア記者クラブの古賀さんのブログ(<http://blogs.yahoo.>)に載っています。また「人民日報」でも大きく紹介され、その記事がウェブネットで転載されています。ぜひ

ご覧ください。

(リポーターより一言)私は最近仕事に疲れたとき「もう60歳になったら働けないな」とため息を何度もつけていましたが、とても100歳とは思えない昇地先生を拝見し、非常に元気付けられました。先生に「ありがとう!」と言いたいです。(周妍)

(3)「青年交流と中日友好フォーラム—中日青年交流50周年記念活動」開催!



中華全国青年連合会張曉蘭副主席の基調講演

9月4日、中日青年交流50周年の記念活動として、中華全国青年連合会主催の「青年交流と中日友好フォーラム」が日中青年交流センターにて開催されました。当事務所の相互理解促進分野の業務担当者が同会議に参加しました。

50年前の1956年、日本青年団協議会は日本国内で積極的に働きかけ、中華全国青年連合会と正式な往来関係を築き、且つお互いの訪問交流を展開し、日中青年友好交流の扉を開きました。

同フォーラムは日本内閣府、日中友好協会、日本青年団協議会及び日本中央青少年団体連絡協議会から派遣した四つの代表団(合計164名)の訪中にあわせて実施されたものであり、当日、中国訪問中の日本青年団員のほか、中国外交部、対外友好協会及び日本大使館、JICA中国事務所等、合計300名近くの関係者も出席しました。

まず、中華全国青年連合会の張曉蘭副主席による「温故知新、友好伝承—中日青年交流の回顧と啓発」と題する基調講演の後、日本青年団協議会/

辻一彦元会長による「青年交流と中日友好フォーラム」と題する基調講演が行われ、四つの日本青年代表団の団長からスピーチも行いました。うち、小淵優子衆議院議員(日中友好協会による派遣)の発言では、日中の若い世代の交流の重要性を強調する上で青年海外協力隊の活動に関する言及もありました。

また、中日青年交流の歴史を紹介するビデオ上演も行い、JICAとの協力で実施されている青年招へい事業(日中青年の友情計画、中国地方青年招へい計画)も重要な青年交流プログラムとして取り上げられ、高く評価されました。

上記四つの代表団は9月5日、人民大会堂で要人と会見した後、湖北省武漢市に訪問する予定になっています。(李瑾)



挨拶を行う小淵優子衆議院議員

(4)タイで開催された調達セミナーに参加しました!

9月6、7日にタイバンコクにて現地調達実務担当者向けの現地調達セミナーが開催されました。このセミナーには、タイ事務所をはじめ、インドネシア、ベトナム、インド、ネパールなど10カ国の現地調達担当の現地職員、日本人スタッフ及びJICA機材調達ヘルプ、JICSの関係者が出席しました。今回は東南アジアにおける在外事務所を対象に行われたため英語で実施されましたが、普段英語でプレゼンをする機会があまりない私にとって、15分程度のプレゼンとはいえ緊張を強いられるセミナーとなりました。



プレゼンを行う吳菲ナショナル・スタッフ

まず各参加者は、他の在外事務所における予定価格の作成方法、企業登録制度の整備状況、コンサルタント契約方法などの事例などを紹介しました。

さらに、私からは、昨年10月にJICSから派遣された調達支援要員の指導のもと、予定価格の概要及びJICA中国事務所における予定価格策定の現状などを紹介し、各参加者と一緒に中国の商慣習を踏まえた上で今後のあり方についてディスカッションを行いました。

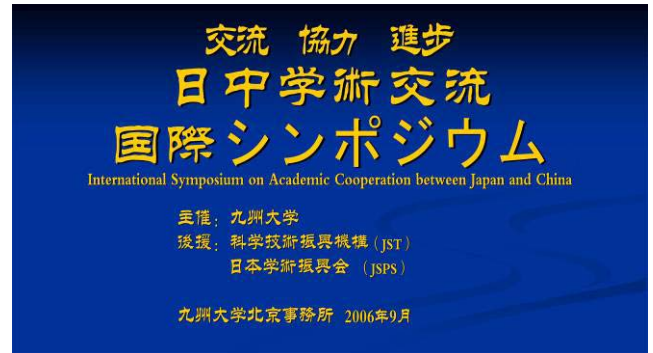
今回のセミナーでは、たくさんの業務知識を習得できたと同時に、他の在外事務所の現地職員とも交流する機会があり、大変有意義な時間を過ごすことができました。今後は、セミナーで学んだ現地調達方法や心得、問題解決対策などを活かして、事務所での業務に役立てていきたいと思っております。最後に、今回のセミナーに参加させていただいたことに対して、事務所の皆様に感謝したいと思います。ありがとうございました。(吳菲)



他の事務所の参加者と記念撮影
(吳菲所員は最後列左から6番目)

(5)「日中学術交流国際シンポジウム」開催！

9月8日、九州大学主催する「日中学術交流国際シンポジウム」が北京翠宮飯店にて開催されました。当事務所からは藤谷浩至次長が同シンポジウムに出席しました。



2006年4月14日、九州大学北京事務所が開所されてから、九州大学の最新情報の提供、九州大学への留学希望者、研究希望者に対する相談窓口業務、九州大学卒業生のデータベース化支援業務等たくさんの活動が展開されてきました。

今回、同シンポジウム出席のため、九州大学梶山総長、柳原副総長一行8人も日本から来られました。シンポジウムにおいて、九州大学柳原副総長、農学研究院今泉勝己院長及び芸術工学研究院源田悦夫教授より国際交流の状況、関連分野の研究状況の説明がありました。

日本学術振興会北京事務所(JSPS)、日本科学技術振興機構北京事務所(JST)、日本新エネルギー産業技術総合開発機構北京事務所(NEDO)、日本国際協力機構中国人民共和国事務所、日本国際協力銀行北京事務所、日本国際交流基金北京事務所をはじめとする日本の関連機関の国際学術交流支援事業の説明会も設けられ、実のある情報や多角的な話題の提供や発言がありました。うち、藤谷次長は、JICA事業の紹介を行い、また、JICAルートで九州大学法学院に博士課程を卒業した実績が4名、在学中の2名がいることを紹介しました。

最近、北京で事務所を設立する日本の大学が増えてきており、様々な学術交流活動が展開されています。JICA中国事務所としても今後上記の活動に積極的に参加し、側面の支援を続けていくべきだと考えています。(李瑾)

2. 主な調査団(派遣中・派遣予定) (9-10月)

新疆民定住技プロ事前(8/28-9/6)

農村養老保険本格調査団(2006.9.20~9.30)

草の根技協モニタリング・評価調査団(9.18~9.25)

3. 今月の行事

11/15~12/7 2006年度地方青年招聘公募面接

本「中国事務所ニュース」は、今後、参加型の紙面づくりを目指していく予定ですので、専門家、ボランティアの方々からの情報提供、大歓迎です。また、本紙に対するご意見、ご提案などもいただければ幸いです。特に、地方の珍しい話題などの投稿をお待ちしています。いずれも中国事務所周南 (zhounan.cn@jica.go.jp)あてにお願いいたします。